

パターンⅢ【先入先出法、損益計算書】

C工場は、同一工程で等級製品X、Yを連続生産している。原価計算の方法は、等価係数に各等級製品の1か月間における完成品数量を乗じた積数の比をもって、1か月間の完成品の総合原価を一括的に各等級製品に按分して製品原価を計算する方法による。次の【資料】にもとづき、等級製品X、Yの完成品総合原価および完成品単位原価を計算し、当月の損益計算書を作成しなさい。

なお、原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分する方法として先入先出法を用いること。また、製品の倉出単価の計算方法は先入先出法によること。

【資料】

[生産データ]

[製品データ]

		製品X		製品Y	
月初仕掛品	400個 (40%)	月初製品	200個		160個
当月投入	<u>5,080個</u>	当月完成品	<u>4,000</u>		<u>1,000</u>
合計	5,480個	合計	4,200個		1,160個
月末仕掛品	<u>480個 (50%)</u>	月末製品	<u>360</u>		<u>120</u>
当月完成品	<u><u>5,000個</u></u>	当月販売	<u><u>3,840個</u></u>		<u><u>1,040個</u></u>
		販売単価	@32,000円		@40,000円

(注) 材料はすべて工程の始点で投入しており、()内は加工費の進捗度である。

[原価データ]

月初仕掛品原価	
直接材料費	6,860,000 円
加工費	<u>986,720</u>
小計	<u>7,846,720 円</u>
当月製造費用	
直接材料費	81,788,000 円
加工費	<u>26,883,360</u>
小計	<u>108,671,360 円</u>
投入額合計	<u><u>116,518,080 円</u></u>

[等価係数]

製品X : 0.8 製品Y : 1

製品Xの完成品総合原価 円

製品Yの完成品総合原価 円

製品Xの完成品単位原価 円/個

製品Yの完成品単位原価 円/個

月次損益計算書(全部)

(単位:円)

I 売上高		()
II 売上原価		
月初製品棚卸高	7,884,800	
当月製品製造原価	()	
合 計	<u>()</u>	
月末製品棚卸高	()	
売上総利益		<u><u>()</u></u>

参考メモ【総合原価計算表・仕掛品ボックス】

等級別総合原価計算表

(単位：円)

	直接材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価			
当月製造費用			
合計			
差引：月末仕掛品原価			
完成品総合原価			

等級製品	等価係数	完成品数量	積数	完成品 総合原価	単位原価 (参考)
X	0.8	個		円	円/個
Y	1	個		円	円/個
		個		円	

仕掛品－直接材料費

月初有高	当月完成
当月投入	月末有高

仕掛品－加工費

月初有高	当月完成
当月投入	月末有高

製 品

月初有高	売上原価
当月完成	月末有高